

母校 室木小学校に感謝する

室木小学校々歌

作詞 幸田 義角

作曲 大和 勝

一 六が嶺の

すそのの青葉につつまれて

希望と夢の歌に生く

五百の学人恵まれし

胸の扉をひらかなん

ああ室木校われらが母校

二 もろともに

世紀をつくる学び舎の

教えの庭の汗と愛

五百の健児燃ゆる火の

自由の光意気高し

ああ室木校われらが母校

三 昇る陽の

福智の山に国安(くにやす)と

祈るまこころ風かおる

五百の学徒(まなびと)前立ちて

人世(ひとよ)の旅を渡らなん

ああ室木校われらが母校



私たちの時代には体育館もプールも無縁の存在でした。現体育館の正面左上に校歌の1節『教えの庭の汗と愛』の額が、右上に校歌の額が掲げられています。校歌ができたのは私たちが小3,4年の頃ですから、まもなく制定50年になります。



温和な現・大和校長は、校歌を作曲された 大和教頭(当時)のご子息でした！



在校時の面影は唯一「森の教室」辺りの森に偲べれます。何もかもすっかり変わっていました。

校歌『恵まれし』が教えるもの・・・

私たちの小学校の頃は、もう半世紀昔の遠い思い出になります。炭鉱が最盛期で、活気があった割には、貧乏が当たり前だった当時、校歌にある『五百の学人恵まれし』の意味が解りませんでした。室木小の近くに高速道路や新幹線が通るようになって、人も、日本も、大事なものを一つずつ失っていったのです。豊かな人情と自然に囲まれた私たちの子供時代の方が、今の子供達よりも恵まれていたのかもしれない。

後輩達への応援歌

秋季大運動会



七十人の少ない友だけと
みんなで力を合わせれば
百、二百の力になるよ
小さな町に住むけれど
希望を高く持つならば
広い世界が見えてくる

今この青空へ
大きく、高く 羽ばたいて
日本へ、世界へ、宇宙へと
(運動会の終りの大和校長の
挨拶を元に作りました。)

今、室木小学校は？

仕事で福岡出張の際に、懐かしい室木小学校を訪れることができました。それも、日曜日が雨のため順延となった運動会を見学させていただきました。かつては児童数 500 人だった室木小学校も、少子化、過疎化の影響か、現在は全学年でわずか 70 名です。5 年生が 19 人で一番多く、4 年生は 7 人しかいないそうです。2 年生のクラスに「四つ子」さんがいるのがせめての救いです。

私たちの豊かな心を育んだ室木小が、これからも、いつまでも存続できるように卒業生として祈って止みません。



旧室木駅構内園

校庭の一角に保存された室木駅構内園がありました。室木線は鹿児島本線遠賀川駅を基点に、古月、鞍手、八尋、終点室木までの全長 12.3k を 20 分で走行。1985 年 3 月 31 日に惜しまれながら廃線となりました。



お地藏様

室木校区から通学した人には、馴染みのあったお地藏様・・・
いつも通学する生徒を見守ったお地藏様も通学路から離れた寂しい脇道側にたたずんでいました。



在校時に設置された「忠臣楠木正行」の坐像です。まだ校庭の片隅に残っていましたが、戦後間もない頃の民主主義での混沌の名残です。



校庭にはコスモス咲き乱れていました。